

# Nipponia nippon

Japanese Crested Ibis



## トキの森公園

新潟県佐渡市

The Toki-Forest Park of Sado Isl.

### トキのむら 新穂

トキの森公園がある新穂地区は佐渡島の中央部、国仲平野と呼ばれる穀倉地帯にあり、土と緑が織りなす豊かな農村です。人の営みは石器時代に遡り、弥生時代、古墳・大和時代を経て、中世、近世には上方や江戸の文化が伝わりました。この豊かな自然と豊かな歴史に彩られた村が、日本におけるトキの最後の生息地となったのです。

### あふれる自然 トキの森公園

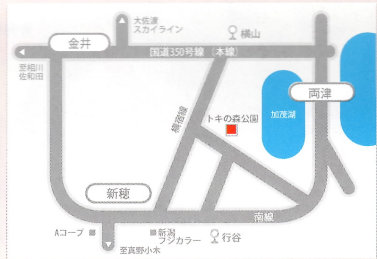
4ヘクタールの敷地内には、さまざまな野鳥が訪れます。春から夏にかけては、ウグイス・ホトトギスのさえずりが聞こえ、秋冬にはミヤマホオジロ・キクイタダキの愛らしい姿も見られます。また、積雪の上にサドノウサギやタヌキの足あとを見つけるアニマルトラッキングも楽しめます。

### 佐渡への所要時間

- 航路 新潟～両津/フェリー2時間30分  
ジェットフォイル60分  
直江津～小木/フェリー2時間40分  
寺泊～赤泊/高速船60分
- 空路 新潟～両津/25分

### トキの森公園へは

- マイカー 両津港より約15分  
小木港より約50分  
赤泊港より約50分
- 定期バス 両津港より約20分 南線行各下車  
小木港より約60分 徒歩約25分  
赤泊港より約60分



### ごあんない

- 開館時間 午前8時半～午後5時(入館締切午後4時30分)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、その翌日の火曜日休館)  
但し、3月から11月までは無休  
年末年始(12月29日～1月3日まで)
- 協力費 トキ資料展示館では入館の際、周辺自然環境の保全と整備のために「環境保全協力費」をいただいています。
- 大人 1人200円(一般・高校生)
- 小人 1人100円(中学生・小学生)

お問い合わせ/トキの森公園 〒952-0101  
新潟県佐渡市新穂長畝383番地2  
TEL/FAX (0259) 22-4123

2008年10月製作

### 国際保護鳥トキについて

Welcome to the Visitor Center of the Toki-Forest Park

トキはニッポニア・ニッポンという学名で、コウノトリ目、トキ科の中の一属一種に分類される鳥です。全長76cm、顔と脚は赤く、頭に細長い冠毛の束をもち、体は淡いピンクを帯びた白色の羽毛でおおわれていますが、繁殖期には頭から背中にかけて灰色になります。山あいの湿地や水田で魚や昆虫などを捕食します。かつては日本の各地で見られ、新穂地区にも数多く生息していました。空を飛ぶトキの姿は美しく、「とき色」と呼ばれる、風切羽や尾羽のオレンジがかったピンク色がいつそうあざやかに見えたものです。しかし明治以降、日本中でその数が激減し、1934年に天然記念物、1952年には特別天然記念物に指定され、1960年に東京で開催された第12回国際鳥類保護会議で国際保護鳥に選定されました。国外ではトキは絶滅したと考えられていましたが、中国で1981年にその存在が確認されて以来、温かい保護によって毎年ヒナが増え続け、2007年現在、野生のものと飼育されているものを合わせて、約1000羽にまで回復しました。1999年1月には、日中友好のあかしとして中国からトキのつがい「ヨウヨウ」「ヤンヤン」が贈呈され、佐渡トキ保護センターで毎年ヒナが誕生しています。

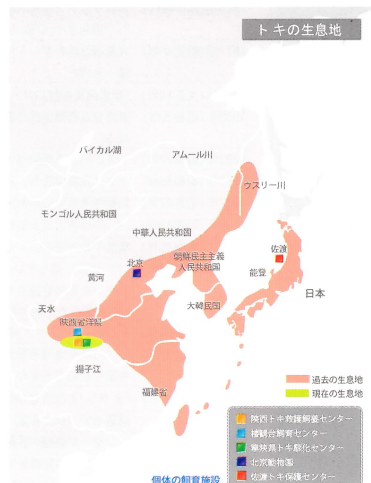
The toki, or Japanese crested ibis, is classified as a bird of 'the sole species in one genus' in the order Ciconiiformes, the family Threskiornithidae, and given a scientific name of *Nipponia nippon*. Its total length is approximately 76cm, with its face and legs bright red, and its body and bushy crest white with a pale pink tint, whilst its head, back and upperwings become grey-black during the breeding season. It feeds on small fish, pond-snails, insects, etc. in ponds, swamps and rice-paddies in mountainsides.

The toki was formerly well distributed throughout Japan, to say nothing of Sado Island. In flight, the underside of its flight-feathers, reflecting sunlight, used to be seen glowing in orange-red. The Japanese incorporated the color into their vocabulary as toki-iro, or toki-color.

Although fairly common all over Japan until the late 19th century, the toki began to greatly decrease in number around the turn of the century, mostly because of its excessive hunting and deforestation. Relict to the danger of extinction, in 1934 the bird was designated by the Japanese government as a Natural Monument, in 1952 as a Special Natural Monument, and then in 1960 at the 12th conference in Tokyo the International Council for Bird Protection ranked the endangered species as an Internationally Protected Bird.

The toki had long been considered to be extinct outside of Japan, but fortunately in China toki sightings were again reported in 1981. Since then every effort to save the dying species has been made, and the bird's number as of the year 2007 has successfully come up to about 1000.

In January, 1999, China presented Japan, as a token of friendship between the two nations, with a young pair of toki 'Yo-Yo' and 'Yang-Yang', and since then they have been successfully giving birth to babies in the Toki Conservation Center.



# トキの森公園のご案内

Guide to Toki-Forest Park



01 トキ展示資料館

02 観察回廊

03 多目的飼育ケージ

04 キンの石碑

トキの現在の様子を生中継でご覧いただく他、トキの資料が多数展示してあります

窓越しに飼育ケージのトキを観察することができます

クロトキ(東アジア産) 別種類のトキを飼育しています

日本の野生最後のトキ「キン」の石碑



## 05 佐渡トキ保護センター

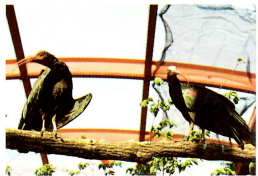
トキの保護・増殖を行う研究施設です  
緑の区域には入れません

## 06 東屋

水飲み場が設置されています



キン(♀)日本最後のトキ  
(平成15年10月10日没)



ホオアカトキ  
(北アフリカ原産、絶滅が心配されている種類)

## トキ年表

- 720年(奈良時代) 『日本書紀』にトキ(桃花鳥)が地名の一部として記載されている。日本の文献では最も古い記述。
- 1735年(江戸時代) 全国の動植物や特産品を記録した「諸国産物帳」が編纂される。その記録により、トキが国内のいたるところに生息していたことがわかる。
- 1826年(江戸時代) 来日中のシーボルトがトキの剥製をオランダに送る。ヨーロッパでトキが新種として紹介され、以後、様々な学名がつけられる。
- 1871年(明治4年) 大英博物館のグレイがトキの学名をNipponia nipponとする。1920年頃から、これに統一された。
- 1925年(大正14年) 「新潟県天産誌」でトキは「蓋獲のためダイサギ等と共に其跡を絶てり」とされる。
- 1930年(昭和5年) 東京日日新聞主催の座談会によって、「佐渡にトキがいる」と広く知られるようになる。
- 1952年(昭和27年) トキが特別天然記念物に指定される。
- 1960年(昭和35年) トキが国際保護鳥に選定される。
- 1967年(昭和42年) 新穂村清水平に新潟県トキ保護センター開設。
- 1968年(昭和43年) 「キン」が宇治金太郎氏により捕獲され、センターで飼育開始。
- 1970年(昭和45年) 能登で本州最後のトキ「ノリ」を捕獲、センターで飼育。(1971年3月死亡)
- 1981年(昭和56年) 1月 佐渡に残っていた野生のトキ5羽を全て捕獲し、センターで飼育(飼育羽数はキンを含め全部で6羽)、以降ペアリングを試みるが成功せず。5月 絶滅したと思われていた中国で、7羽のトキが発見される。
- 1985年(昭和60年) 中国から「ホアホア」を借り受け「キン」とペアリング。
- 1989年(平成元年) 「キン」が生産羽不完全着色「ホアホア」中国返還。中国で初めてトキの人工ふ化に成功。
- 1990年(平成2年) 「ミドリ」を北京動物園に貸出し、中国の「ヤオヤオ」とペアリング開始。(繁殖に成功せず、H4.9帰国)
- 1993年(平成5年) センターが新穂村長畝に移転。佐渡トキ保護センターと改称。
- 1994年(平成6年) 4月 トキの森公園がオープンして、トキの一般公開が始まる。9月 中国から「ロンロン」「フォンフォン」を借り受け、飼育繁殖を開始。12月 「ロンロン」死亡。

- 1995年(平成7年) 4月 「フォンフォン」と「ミドリ」のペアリング開始。5個産卵するがふ化せず。「ミドリ」死亡。「フォンフォン」返還。
- 1999年(平成11年) 1月 中国から贈呈された「ユウユウ」「ヤンヤン」ペアが到着。5月 国内で初めて人工繁殖に成功。「ユウユウ」誕生。
- 2000年(平成12年) 「ユウユウ」「ヤンヤン」ペアから「シンシン」と「アイアイ」誕生。「ユウユウ」のお嫁さんとして中国から「メイメイ」到着。
- 2001年(平成13年) 「ユウユウ」「ヤンヤン」ペアと「ユウユウ」「メイメイ」ペアから11羽のヒナが育つ。
- 2002年(平成14年) 「ユウユウ」「ヤンヤン」ペアと「ユウユウ」「メイメイ」ペアから12羽のヒナが育つ。
- 2003年(平成15年) 3ペアから18羽のヒナが育つ。10月10日 日本の野生産最後のトキ「キン」死亡。36歳。
- 2004年(平成16年) 5ペアから19羽のヒナが育つ。(1羽の自然繁殖に成功)
- 2005年(平成17年) 7ペアから22羽のヒナが育つ。(うち自然繁殖のヒナ1羽)
- 2006年(平成18年) 9ペアから18羽のヒナが育つ。(自然繁殖15羽)
- 2007年(平成19年) 佐渡トキ保護センター野生復帰ステーション、環境省佐渡自然保護官事務所開設。11ペアから14羽のヒナが育つ。(自然繁殖11羽)7月 トキの野生復帰順化訓練開始。11月 中国から贈呈された「ホウヤン」「イーシュー」が到着。中国へ13羽のトキを返還。12月 多摩動物公園へトキ4羽を移送。(感染症回避のため)
- 2008年(平成20年) 20ペアから29羽のヒナが育つ。(自然繁殖8羽)9月25日 10羽のトキが自然へ試験放鳥される。

H20年10月10日現在	
トキの個体数	122羽
佐渡トキ保護センター	83羽
佐渡トキ保護センター 野生復帰ステーション	17羽
多摩動物公園	12羽
野 生	10羽